

こぼんはうすさくら堺教室 児童発達支援 平日午前のプログラム

法人理念	「すべての答えは、児童の中にあります。可能性を見つけてさしあげる集団になろう！」
支援方針	・個別支援の充実：一人ひとりの発達段階や特性に応じた個別支援計画を作成し、適切な支援を提供する。 ・小集団活動の促進：コミュニケーション力や社会性を育むために、小集団での活動を取り入れる。 ・スモールステップの学習：無理のないペースで成功体験を積み重ね、自信を育てる。 ・感覚統合アプローチ：感覚の偏りに配慮し、適切な感覚刺激を提供することで身体の使い方をサポートする。 ・言語発達支援：理解語彙や表出語彙を増やし、コミュニケーションの幅を広げる支援を行う。 ・日常生活動作の習得：生活に必要な動作を自立して行えるよう支援する。 ・協調運動・粗大運動：身体の使い方やバランス感覚を養い、運動能力の向上を目指す。 ・微細運動の発達支援：手先の器用さを育てるために、運筆やボタン掛けなどのトレーニングを取り入れる。 ・音韻意識の向上：言葉のリズムや音を意識し、文字の学習につなげる支援を行う。 ・視覚的支援の活用：スケジュールや課題を見える化し、理解しやすい環境を整える。 ・安心できる環境づくり：児童が安心して活動できるよう、配慮の行き届いた環境を提供する。 ・保護者様との連携：定期的な相談や情報共有を行い、家庭と連携しながら支援を進める。 ※このような支援方針を基に、児童一人ひとりの成長を支える環境を整えていきます。
営業時間	9時30分～17時30分

プログラム	平日午前（9時30分～12時40分）の支援内容(5領域)
生活習慣 構造化 (9時30分/常時)	手洗い・体温チェック・荷物の整理・排泄習慣・スケジュールや時間・環境・手順の構造化・衣類の着脱(身支度)など、生活スキルの向上。
リズムウォーク (10時00分)	ピアノのリズムに合わせて白線に沿って円を描きながら歩き、身体模倣(カニ、飛行機、蝶、カメなど)や、色の指示遂行、片足立ちなど身体動作を行う(模倣による社会性の発達・指示遂行による認知の発達・身体移動やバランス感覚など運動の発達、リフレッシュによるその後の着席や集中のしやすさ)、動→静へ(自律神経の調整力)。
はじまりの会 (10時10分)	朝のご挨拶・はじまりの歌(手遊び歌)・お名前とお返事「はい」・リズムお名前呼びの歌「(名前)です」・言語レッスン(バナナの歌・絵カードフラッシュ(名詞の音声模倣)・こぼんの一日(名詞と動詞の音声模倣)・色・身体部位の音声模倣)。
集団活動 (10時20分)	5領域(健康生活・運動感覚・認知行動・言語コミュニケーション・人間関係社会性)のプログラムの実施(スタッフによるオーダーメイドで考案された内容で、日々バリエーションに富んだ内容)。
運動 (10時35分)	主に、前庭覚や固有受容感覚の発達を促進する日替わり運動プログラムの実施(感覚統合)。
個別課題 (10時50分)	保護者様のニーズを踏まえ、専門職による専門的支援計画(6か月)の内容に即して、各児童ごとの発達状況に応じた発達促進課題を個別・集中的に実施する(課題によっては集団の場や自由遊びの機会を利用して個別・集中的に専門職が関わる場合もあり)。
自由遊び (11時50分)	応用行動分析(ABA)の理論にのっとり、課題への取り組み→好きなおもちゃを選んで遊ぶことの随伴性を持たせることで、課題への取り組みを強化させる。おもちゃの貸し借り、ルールを守っての共同遊びなど、遊びを通じた社会性の促進の機会。二項関係から三項関係への促進の機会。
おわりの会 (12時20分)	手遊び歌・絵本読み聞かせ・二語文模倣or口角模倣(ピアノのリズム+絵カード提示)・ハイタッチの歌(各児童とハイタッチ)・季節の歌・お帰りのご挨拶・保護者様への療育のフィードバック。
家族支援	
保護者のニーズを踏まえ、子どもの発達状況や特性の理解に向けた相談支援。子育ての困りごとへの相談支援。保護者同士の交流の機会提供(保護者会の開催)。兄弟姉妹への相談支援。	
移行支援	
インクルージョンの推進。年長児に対する就学準備プログラムの実施。就学相談支援(MSPA=どのような支援を必要としているかを明らかにする心理検査の実施)。併用利用先や園との情報共有や支援のすり合わせ。	
地域支援・地域連携	
併用事業所や園との支援方法や環境調整の情報共有や連携支援。相談支援事業所との情報共有と具体的な支援についての考案、連携。防災を含めた地域住民や関係機関との連携。行事による交流(ハロウィン・餅つき大会ほか)。	
職員の質の向上	
個人的な研修参加への受講補助。本部からのSVの派遣(実際の事象について行動観察後、具体的な支援についての提案)。虐待防止・身体拘束・感染症の必須研修の受講。定期的な支援会議の開催。多職種スタッフの輪番制による支援研修の実施。	
主な行事等	
流しそめん(夏)・夏祭り(夏)・ハロウィン(秋)・クリスマス会(冬)・餅つき大会(年末)・親子サッカー(不定期)・消防訓練(年2回)・保育キャラバン(近隣の保育園の行事参加)・保護者会(製作・演奏・ビンゴ大会・グループ箱庭ほか)。	

こぱんはうすさくら堺教室 児童発達支援 平日午後のプログラム

法人理念	「すべての答えは、児童の中にあります。可能性を見つけてさしあげる集団になろう！」
支援方針	・個別支援の充実：一人ひとりの発達段階や特性に応じた個別支援計画を作成し、適切な支援を提供する。 ・小集団活動の促進：コミュニケーション力や社会性を育むために、小集団での活動を取り入れる。 ・スモールステップの学習：無理のないペースで成功体験を積み重ね、自信を育てる。 ・感覚統合アプローチ：感覚の偏りに配慮し、適切な感覚刺激を提供することで身体の使い方をサポートする。 ・言語発達支援：理解語彙や表出語彙を増やし、コミュニケーションの幅を広げる支援を行う。 ・日常生活動作の習得：生活に必要な動作を自立して行えるよう支援する。 ・協調運動・粗大運動：身体の使い方やバランス感覚を養い、運動能力の向上を目指す。 ・微細運動の発達支援：手先の器用さを育てるために、運筆やボタン掛けなどのトレーニングを取り入れる。 ・音韻意識の向上：言葉のリズムや音を意識し、文字の学習につなげる支援を行う。 ・視覚的支援の活用：スケジュールや課題を見える化し、理解しやすい環境を整える。 ・安心できる環境づくり：児童が安心して活動できるよう、配慮の行き届いた環境を提供する。 ・保護者様との連携：定期的な相談や情報共有を行い、家庭と連携しながら支援を進める。 ※このような支援方針を基に、児童一人ひとりの成長を支える環境を整えていきます。
営業時間	9時30分～17時30分

プログラム	平日午後(13時50分～17時00分 / 14時20分～17時30分)の支援内容(5領域)
生活習慣構造化 (常時)	手洗い・体温チェック・荷物の整理・排泄習慣・スケジュールや時間・環境・手順の構造化・衣類の着脱(身支度)など、生活スキルの向上。
個別課題 (13時55分 (14時25分))	保護者様のニーズを踏まえ、専門職による専門的支援計画(6か月)の内容に即して、各児童ごとの発達状況に応じた発達促進課題を個別・集中的に実施する(課題によっては集団の場や自由遊びの機会を利用して個別・集中的に専門職が関わる場合もあり)。
自由遊び (15時30分)	応用行動分析(ABA)の理論にのっとり、課題への取り組み→好きなおもちゃを選んで遊ぶことの随伴性を持たせることで、課題への取り組みを強化させる。おもちゃの貸し借り、ルールを守っての共同遊びなど、遊びを通した社会性の促進の機会。二項関係から三項関係への促進の機会。
おやつ (15時55分)	5～6種類から好みのものを選択(アレルギーのあるお子さまは、ご家庭よりご持参いただく)。
はじまりの会 (16時05分)	お昼のご挨拶・はじまりの歌(手遊び歌)・今日の日付とお天気・お名前とお返事「はい」・パカパカ体操(口腔機能の向上)・質問と応答・静と動(自律神経の調整力)。
集団活動 (16時20分)	5領域(健康生活・運動感覚・認知行動・言語コミュニケーション・人間関係社会性)のプログラムの実施(スタッフによるオーダーメイドで考案された内容で、日々バラエティに富んだ内容)。
運動 (16時40分)	運動サーキット(マット運動・太鼓橋渡り・移動ジャンプor移動ケンケン・トンネルくぐり・一本橋渡り)。
おわりの会 (16時50分)	絵本の読み聞かせ・お帰りのご挨拶・保護者様への療育のフィードバック。
家族支援	
保護者のニーズを踏まえ、子どもの発達状況や特性の理解に向けた相談支援。子育ての困りごとへの相談支援。保護者同士の交流の機会提供(保護者会の開催)。兄弟姉妹への相談支援。	
移行支援	
インクルージョンの推進。年長児に対する就学準備プログラムの実施。就学相談支援(MSPA=どのような支援を必要としているかを明らかにする心理検査の実施)。併用利用先や園との情報共有や支援のすり合わせ。	
地域支援・地域連携	
併用事業所や園との支援方法や環境調整の情報共有や連携支援。相談支援事業所との情報共有と具体的な支援についての考案、連携。防災を含めた地域住民や関係機関との連携。行事による交流(ハロウィン・餅つき大会ほか)。	
職員の質の向上	
個人的な研修参加への受講補助。本部からのSVの派遣(実際の事象について行動観察後、具体的な支援についての提案)。虐待防止・身体拘束・感染症の必須研修の受講。定期的な支援会議の開催。多職種スタッフの輪番制による支援研修の実施。	
主な行事等	
流しうめん(夏)・夏祭り(夏)・ハロウィン(秋)・クリスマス会(冬)・餅つき大会(年末)・親子サッカー(不定期)・消防訓練(年2回)・保育キャラバン(近隣の保育園の行事参加)・保護者会(製作・演奏・ビンゴ大会・グループ箱庭ほか)。	

こぱんはうすさくら堺教室 児童発達支援 土曜日・日曜日午前のプログラム

法人理念	「すべての答えは、児童の中にあります。可能性を見つけてさしあげる集団になろう！」
支援方針	・個別支援の充実：一人ひとりの発達段階や特性に応じた個別支援計画を作成し、適切な支援を提供する。 ・小集団活動の促進：コミュニケーション力や社会性を育むために、小集団での活動を取り入れる。 ・スモールステップの学習：無理のないペースで成功体験を積み重ね、自信を育てる。 ・感覚統合アプローチ：感覚の偏りに配慮し、適切な感覚刺激を提供することで身体の使い方をサポートする。 ・言語発達支援：理解語彙や表出語彙を増やし、コミュニケーションの幅を広げる支援を行う。 ・日常生活動作の習得：生活に必要な動作を自立して行えるよう支援する。 ・協調運動・粗大運動：身体の使い方やバランス感覚を養い、運動能力の向上を目指す。 ・微細運動の発達支援：手先の器用さを育てるために、運筆やボタン掛けなどのトレーニングを取り入れる。 ・音韻意識の向上：言葉のリズムや音を意識し、文字の学習につなげる支援を行う。 ・視覚的支援の活用：スケジュールや課題を見える化し、理解しやすい環境を整える。 ・安心できる環境づくり：児童が安心して活動できるよう、配慮の行き届いた環境を提供する。 ・保護者様との連携：定期的な相談や情報共有を行い、家庭と連携しながら支援を進める。 ※このような支援方針を基に、児童一人ひとりの成長を支える環境を整えていきます。
営業時間	9時30分～17時30分

プログラム	土曜日・日曜日午前(9時30分～12時40分)の支援内容(5領域)
生活習慣 構造化 (9時30分/常時)	手洗い・体温チェック・荷物の整理・排泄習慣・スケジュールや時間・環境・手順の構造化・衣類の着脱(身支度)など、生活スキルの向上。
リズムウォーク (10時00分)	ピアノのリズムに合わせて白線に沿って円を描きながら歩き、身体模倣(カニ、飛行機、蝶、カメなど)や、色の指示遂行、片足立ちなど身体動作を行う(模倣による社会性の発達・指示遂行による認知の発達・身体移動やバランス感覚など運動の発達、リフレッシュによるその後の着席や集中のしやすさ)。
はじまりの会 (10時10分)	朝のご挨拶・はじまりの歌(手遊び歌)・お名前とお返事「はい」・リズムお名前呼びの歌「(名前)です」・言語レッスン(バナナの歌・絵カードフラッシュ(名詞の音声模倣)・こぱんの日(名詞と動詞の音声模倣)・色・身体部位の音声模倣)。
集団活動 (10時20分)	5領域(健康生活・運動感覚・認知行動・言語コミュニケーション・人間関係社会性)のプログラムの実施(スタッフによるオーダーメイドで考案された内容で、日々バラエティに富んだ内容)。2つの小集団。
運動 (10時35分)	運動サーキット(マット運動・太鼓橋渡り・移動ジャンプor移動ケンケン・トンネルくぐり・一本橋渡り・バランスストーン・バランスディスク)。
個別課題 (10時50分)	保護者様のニーズを踏まえ、専門職による専門的支援計画(6か月)の内容に即して、各児童ごとの発達状況に応じた発達促進課題を個別・集中的に実施する(課題によっては集団の場や自由遊びの機会を利用して個別・集中的に専門職が関わる場合もあり)。
自由遊び (11時50分)	応用行動分析(ABA)の理論の通り、課題への取り組み→好きなおもちゃを選んで遊ぶことの随伴性を持たせることで、課題への取り組みを強化させる。おもちゃの貸し借り、ルールを守っての共同遊びなど、遊びを通じた社会性の促進の機会。二項関係から三項関係への促進の機会。
おわりの会 (12時0分)	手遊び歌・絵本読み聞かせ・二語文模倣or口角模倣(ピアノのリズム+絵カード提示)・ハイタッチの歌(各児童とハイタッチ)・季節の歌・お帰りのご挨拶・保護者様への療育のフィードバック。
家族支援	
保護者のニーズを踏まえ、子どもの発達状況や特性の理解に向けた相談支援。子育ての困りごとへの相談支援。保護者同士の交流の機会提供(保護者会の開催)。兄弟姉妹への相談支援。	
移行支援	
インクルージョンの推進。年長児に対する就学準備プログラムの実施。就学相談支援(MSPA=どのような支援を必要としているかを明らかにする心理検査の実施)。併用利用先や園との情報共有や支援のすり合わせ。	
地域支援・地域連携	
併用事業所や園との支援方法や環境調整の情報共有や連携支援。相談支援事業所との情報共有と具体的な支援についての考案、連携。防災を含めた地域住民や関係機関との連携。行事による交流(ハロウィン・餅つき大会ほか)。	
職員の質の向上	
個人的な研修参加への受講補助。本部からのSVの派遣(実際の事象について行動観察後、具体的な支援についての提案)。虐待防止・身体拘束・感染症の必須研修の受講。定期的な支援会議の開催。多職種スタッフの輪番制による支援研修の実施。	
主な行事等	
流しそうめん(夏)・夏祭り(夏)・ハロウィン(秋)・クリスマス会(冬)・餅つき大会(年末)・親子サッカー(不定期)・消防訓練(年2回)・保育キャラバン(近隣の保育園の行事参加)・保護者会(製作・演奏・ビンゴ大会・グループ箱庭ほか)。	

こばんはうすさくら堺教室 児童発達支援 日曜日午後(就学前)のプログラム

法人理念	「すべての答えは、児童の中にあります。可能性を見つけてさしあげる集団になろう！」
支援方針	・個別支援の充実:一人ひとりの発達段階や特性に応じた個別支援計画を作成し、適切な支援を提供する。 ・小集団活動の促進:コミュニケーション力や社会性を育むために、小集団での活動を取り入れる。 ・スモールステップの学習:無理のないペースで成功体験を積み重ね、自信を育てる。 ・感覚統合アプローチ:感覚の偏りに配慮し、適切な感覚刺激を提供することで身体の使い方をサポートする。 ・言語発達支援:理解語彙や表出語彙を増やし、コミュニケーションの幅を広げる支援を行う。 ・日常生活動作の習得:生活に必要な動作を自立して行えるよう支援する。 ・協調運動・粗大運動:身体の使い方やバランス感覚を養い、運動能力の向上を目指す。 ・微細運動の発達支援:手先の器用さを育てるために、運筆やボタン掛けなどのトレーニングを取り入れる。 ・音韻意識の向上:言葉のリズムや音を意識し、文字の学習につなげる支援を行う。 ・視覚的支援の活用:スケジュールや課題を見える化し、理解しやすい環境を整える。 ・安心できる環境づくり:児童が安心して活動できるよう、配慮の行き届いた環境を提供する。 ・保護者様との連携:定期的な相談や情報共有を行い、家庭と連携しながら支援を進める。 ※このような支援方針を基に、児童一人ひとりの成長を支える環境を整えていきます。
営業時間	9時30分～17時30分

プログラム	日曜日午後・就学前プログラム(13時50分～17時00分)の支援内容(5領域)
生活習慣 構造化 (常時)	手洗い・体温チェック・荷物の整理・排泄習慣・スケジュールや時間・環境・手順の構造化・衣類の着脱(身支度)など、生活スキルの向上。
はじまりの会 (14時00分)	お昼のご挨拶・今日の日付とお天気・お名前とお返事「はい」(出欠)。
集団療育 (14時05分) 休み時間 (14時20分)	ホワイトボードと机を配置し、小学校の教室のような環境で、一人ひとりの発達段階や特性、得意不得意に配慮しながらの個別対応を基本に就学前準備の療育を行う。学校生活のルールやコツ・授業を受ける時のルールの確認・時間割で動こう・休み時間・トイレ習慣・交通ルール・自己紹介・個別の教科学習の土台スキル(カレンダーや時計・読み書き・数・短期記憶・製作・SST・その他認知発達課題)など豊富な題材。
集団療育 (14時25分) 休み時間 (14時40分)	同上(時間割形式)。
集団療育 (14時45分) 休み時間 (15時00分)	同上(時間割形式)。
集団療育 (15時05分) おやつ (15時20分)	同上(時間割形式)。 おやつは、5～6種類から好みのものを選択(アレルギーのあるお子さまは、ご家庭よりご持参いただく)。
集団活動 (15時30分)	5領域(健康生活・運動感覚・認知行動・言語コミュニケーション・人間関係社会性)のプログラムの実施(スタッフによるオーダーメイドで考案された内容で、日々バリエーションに富んだ内容)。
運動 (15時50分)	運動サーキット(マット運動・太鼓橋渡り・移動ジャンプor移動ケンケン・トンネルくぐり・一本橋渡り・バランスストーン・大縄跳び・最後に瞑想)。
自由遊び (16時10分)	応用行動分析(ABA)の理論にのっとり、課題への取り組み→好きなおもちゃを選んで遊ぶことの随伴性を持たせることで、課題への取り組みを強化させる。物の貸し借り、ルールを守っての共同遊びなど、遊びを通した社会性の促進の機会。
おわりの会 (16時40分)	絵本の読み聞かせ・お帰りのご挨拶・保護者様への療育のフィードバック。
家族支援	
保護者のニーズを踏まえ、子どもの発達状況や特性の理解に向けた相談支援。子育ての困りごとへの相談支援。保護者同士の交流の機会提供(保護者会の開催)。兄弟姉妹への相談支援。	
移行支援	
インクルージョンの推進。年長児に対する就学準備プログラムの実施。就学相談支援(MSPA=どのような支援を必要としているかを明らかにする心理検査の実施)。併用利用先や園との情報共有や支援のすり合わせ。	
地域支援・地域連携	
併用事業所や園との支援方法や環境調整の情報共有や連携支援。相談支援事業所との情報共有と具体的な支援についての考案、連携。防災を含めた地域住民や関係機関との連携。行事による交流(ハロウィン・餅つき大会ほか)。	
職員の質の向上	
個人的な研修参加への受講補助。本部からのSVの派遣(実際の事象について行動観察後、具体的な支援についての提案)。虐待防止・身体拘束・感染症の必須研修の受講。定期的な支援会議の開催。多職種スタッフの輪番制による支援研修の実施。	
主な行事等	
流しそうめん(夏)・夏祭り(夏)・ハロウィン(秋)・クリスマス会(冬)・餅つき大会(年末)・親子サッカー(不定期)・消防訓練(年2回)・保育キャラバン(近隣の保育園の行事参加)・保護者会(製作・演奏・ビンゴ大会・グループ箱庭ほか)。	